

トラック 9-1

これからお話をするのは、イバナワシとクリ・シンバの二人が大の親友だった頃のこと、彼らは兄弟と言えるほどの友人だった。

彼らは一緒に働き、なんとか生活していたが、ある日、彼らは自分達の畑を開墾することを決めた。そこで、彼らは自分達の畑を開墾するために奥地に入って行った。

最初の日、イバナワシは自分の分を切り開いた。二日目に彼らはクリ・シンバの分を開墾しに出かけた。彼らは丘を開墾し、燃やしに燃やして、燃やし、きれいにして、すべてを整え、植えるものを探しに出かけた。彼らはバナナを摘みに出かけたが、まずイバナワシが仕事に出かけ、それからクリ・シンバがマニョクを掘り出す番が来た。それから逆にイバナワシがまた出かけ、次はまたクリ・シンバの番が来た。

彼らがそこ(開墾した場所)に行った最初の日、イバナワシの分を植えるために、彼らはたくさんの穴を掘って、そこにバナナを降ろした。

彼らは、その穴を埋めて、次にマニョクを植えた。次の週はクリ・シンバの番で、彼らは自分たちのところへ行って、そこに(クリ・シンバの分を)植えた。

イバナワシはクリ・シンバに言った。

「ちょっとお前に話したいことがある、クリ・シンバ。僕のバナナはおととい植えられたし、僕のマニョクもおととい植えられた。それなのに、お前のは今日ようやく植えられるところだ。お前は根を地面に、土の上に植えたほうがいぞ。そうしなければ、僕のがお前のを押し上げてしまうから」。